提言

今こそ問われる作業療法士の使命

上田 裕久
Hirohisa UETA
■ 株式会社豊結会，代表取締役，作業療法士

今回，提言執筆の機会をいただきました．私のような者がと恐縮しながらも，大変光栄なことと思い，快諾させていただきました．

しかし，文才のない私は，何を書けばいいのか頭を悩ませました．そこで，甚だ恐縮ですが，OTとしての自分自身の振り返りと，今後の展望をもって提言とさせていただきます．

さて私は，2009年（平成21年）の8月まで徳島県の養成施設で約10年の間，教員をしておりました．ありきたりの言葉ですが，学生からは，数多くのことを学ばせていただきました．この10年，養成施設が乱立する中，臨床で必要とされるOTを輩出できているのか，常に自問しておりました．現在教職をされている先生方も同じようなことで頭を悩ませていると思います．またある先生からは，「先天的に教職に向いている教員は3%ほど」だとうかがいました．では，その中でいわゆる「良い教員」とは何なのか．以前から，「教員は雑務に追われて……」等ということをよく耳にしますが，それは言い訳に過ぎず，もし学生が同じようなことを発言した場合，許されないはずです．やはり，そこで一番大切なことは「責任」だと思います．一人ひとりの教員が，本当に責任をもって教育を行っているといえるでしょうか．大半の教員は，「教育の専門教育」を受けていない中，高度な専門的指導力を要求されています．そのため，どの先生方も今まで自分自身が受けてきたしつけや教育，自己の理想とする教育方針をもとに教育を行っていると思います．ときに，学生に問題が生じたとき，自己の怠慢から十分な指導が行えていないにもかかわらず，保身ばかりを気にして，あたかも自分は指導してきたと根拠の薄い精神論を並べたり，一方的な指導で自己満足に終わっている場合があるように思います．あらためて教育とは何なのかを考えたとき，簡単に答えを導き出せることではないとわかっているはずです．だからこそ，日々の自己研鑽が重要となり，追求することをやめると成長はなく，また，自分はできていると過信した時点で違った方向に導いてしまいます．

近年，ゆとり教育の影響か，確実に学生の質は下がっていると思います．しかし，それを話し合っても先には進みません．だからこそ，今すべきことは，現実を正しく捉え，それぞれの教員の責任の下，社会背景も含めて，柔軟に対応することしかないはずです．そして，最終的には決して「あきらめない」という思いと，客観的に捉える自己の洞察力を身につけるべきだと考えながら，私自身，熱く学生に関わってきました．

一方で近年，入院医療中心から地域生活支援中心へという動向から，「地域」に関心が芽生えだし，2年前，ある先生のご紹介で，OTが開設している事業所を見学させていただき，私は非常に強い感銘を受けました．そして，マネジメントへの興味と自分が住む地域への貢献という思いが同調し，夢を叶えるべく，さまざまな研修会に参加し情報を集めました．そこで多くの先生方からのご指導を得て，2012年の診療報酬・介護報酬同時改定を踏まえ，助走期間を考えた2011年（平成23年）のデイサービスセンター設立を目指しました．

さらに，この提言執筆に際し，今までの思いを実現する絶好の機会と思い，会社設立を決心しま

した．そして，原稿の締め切りまでに会社の登記を目指し，完了することができました．私事で大変恐縮ですが，弊社の紹介をさせていただきたいと思います．

2010年（平成22年）10月5日，登記完了．商号を「株式会社 豊結会（ほうゆうかい）」と名づけました．そして，2011年（平成23年）1月5日リハビリテーション特化型「デイサービスセンターFor You」開所（ちなみに私の誕生日です）．弊社の理念としましては，①豊かな人生を送っていただく，②人と人との結びつき，地域との結びつきを重視する，③質の高いサービスを提供する，④地域で必要とされる人材の育成を目指す，⑤そして，何よりもすべてにおいてあなたのために（for you），と決めました．スタッフ一同，笑顔の絶えない職場を合言葉に，楽しい職場をつくっていきます．生活の保障ができる雇用環境と質の高い職場環境は，必然的に職員の士気を高め，新しいチャレンジ精神を生み出すと考えています．さらに，今年の目標としましては，「居宅介護支援事業所」，「訪問看護ステーション」の設立を目指し，挑戦していきます．今まで学生に注いできた情熱を，地域の皆様，職員相互のために責任をもって尽力していきたいと思っております．

最後に，先日の徳島県士会ニュースにも書かせていただいたのですが，皆様は，協会・県士会活動（以下県士会活動）に対して，

積極型ですか？

受身型ですか？

逃避型ですか？

最近，県士会費の納入率が下がっています．県士会役員として，会員のneedsに合った活動を提供できているかどうか，日々頭を悩ませていますが，一方で県士会活動に対して，「メリットが……」，「会費が高い……」，等の意見も耳にします．私も今，忸怩たる思いで聞いています．私も以前は，そのようなことを言っていたときもありました．しかし，メリット・デメリットを言う前に，何ができていたのかを痛感しています．

協会からも2008年（平成20年）に「作業療法5カ年戦略」が発表されました．皆様は，熟読されているでしょうか．その中で，「作業療法の普及・啓発」という項目があります．協会からも「一人ひとりの作業療法の実践が広報活動になる」と掲げています．皆様は，どのような思いで日々の作業療法を実践されているでしょうか．もちろん，言うまでもなく，目の前の対象者のために努力されていると思います．決して，パターナリズムとなることなく，対象者の立場に立った作業療法を提供していただきたいと思います．

ここで考えるべきことは，これからも対象者に，ひいては社会に作業療法を提供していくためには，会員一丸となって作業療法を普及させなくてはいけない，ということです．そのために，社会に認められる職能団体でなければなりません．もちろん，対象者のために作業療法を行うことは最重要責務ですが，決してそれだけが求められていることではないと思います．皆様もご存じだと思いますが，国全体でいろいろな動きがあります．他団体の動向も気になりますが，作業療法という職域を守るには，皆様の理解と協力が不可欠です．そのためには，納入率はもとより組織率を上げなくてはいけません．

また，皆様は作業療法をわかりやすく伝えられているでしょうか．これから地域で必要とされるために，また，「ぜひ作業療法をしてもらいたい」と人々から言われるようになるためには，作業療法の意義を「わかりやすく」伝えることも皆様の役目だと考えます．

県士会活動に対して，メリット・デメリットを言う前に，自己閉塞しないように，逃避したり受身型にならないように，積極型になっていただきたいと思います．

いろいろと脈絡のない文章になってしまいましたが，最後まで読んでいただき，ありがとうございました．今後も，自分自身に責任をもち，自分にできることを少しずつ取り組んでいこうと思っております．そして，これまでお世話になった方々への恩返し，これから出会う方々に少しでも貢献できるように，一から頑張りたいと思います．

最後になりましたが，このような機会をくださり，本当にありがとうございました．